

発行日 平成28年3月1日 第108号

林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

雷らいべつ

ドングリ倶楽部開催

伸

越芽 /する芽/ あら 秋 ゙゚ゕ 春け は作



枝先のふくらみが「冬芽」 ミズナラの枝に、いっぱい!

第俱 395楽2 まるなではでれ秋? す。芽ぜすいす木に 挨 寒回回部月 そかの落う?よ葉 **\の目** な がね活のが日 こうで: (とう) よ葉 わら動活りには動 か うが観で、察 चे_° 見葉 が厳寒期にでしばれるねえく樹木の観察。 すふす 冬だ え つ °ゆる るぱ から こも めの とは のな や 時く、 も樹 5 期 d い木

に枯

いの

0)

かが

種釧と のすも太 事 用路実教前な場かに平観 れ意周物材のの所ら吹洋察 らし辺のは予でで、きか場 ਰ 冬付ら所 使 はけのは、 、 `冷_当 寒 **₹**0 で効 てでいう るい解 樹種ごとの あも浜分 広た説だい た寒風 った 葉木し りいが周 樹のた 屋 を枝資 まのま辺 内

。 料



枝を手に取り「冬芽」を解説中の職員。 皆さん熱心にメモを取っています。

もめ位

ち樹で ま木すど び すっかれ 種類を見分けるのに観察すると個性豊谷も同じものに見えるいで見える にがる 役で冬 `芽 立

施に

るり

えでと

斬新なデザインの建物ですが、見ているのは 手前にある木(オニグルミ)の枝先です。

置樹し本ケ原 し移知ま形徴 の別れ首に種た観力 ま動識し式や "をた。 ドまがあに ンせ痛りよ 察 がなった。 分 セけ け ねな熱て 芽 冬た ンる 活楽部 タポ つ心は (D) たに 特夕 のこ お 人観冬 徴モ 観ろ . (O)

1 1 職ン 疲皆 も察芽 を等 員卜 れさ 確を がを いしが 様ん を屋 ク 認 解 るた高 説イ かたい

たセ西林 発林林組・林と民北け れ催衆凶に巾北 ・ プ部関釧表ふ保活林づ道有海でこま、林る係北海 2 ・ アン部関 たので 夕森係路をれ全動業く内林道実の づたる区道月 くめ技 一林者地行あ部をにり各関の施発を遭く の管等方⊋い門_関、地係職し表。森り の管等方でい門 つ樹夕 術を学日 技工情会学 ¬森連森か者員 成報場術木 がす林らや て育は 高技る環参高市 成. 理流年の一般では、 けへ衣ので「高技の塊多高巾も 職釧は参すで校術そ境加校町の解 行発 をに森 一元度情森会 が表がかがない。 員路な加。 `部部れ教が生村で野 発わ林 わ表 38門門ぞ育あ・のは庁 れ内 だ市くは かけ職な職 開三の交・ ママれ `学員ぐ でと根民 催 国換林札 いを ¬一の森 し物門 さ主・を業幌 の森森取林森生

北の国・森林づくり平成7年度

「展示されていたパネル」

広葉樹林育成における動物の食害について

釧路湿原森林ふれあい推進センター 自然再生指導官 立野 政信

研究の背景・目的

平成12年度にトドマツの人工林が気象害に遭い大規模な立ち枯れが発生しました。

一のため、疎林や無立木地になった箇所を地表処理し、人工植栽及び天然更新により広葉樹主体の森林を造成する自然再生事業を行っていますが、エゾシカによる激しい食害が発生したため、防鹿柵を設置しました。ところが防鹿柵内に新たな動物による食害が発生しました。

その動物を特定するための調査方法を検討のうえ実践し、その対策についての知見が得られたので発表します。

研究の内容・成果

釧路湿原上流部の雷別地区において、地表処理し、人工植栽及び天然更新による広葉樹主体の森林を造 成する自然再生事業を行っています。

天然更新が順調に進んでいない一方、植栽木は、ツリーシェルターで保護した箇所以外はエゾシカの食害 を受けほぼ全滅の箇所もありました。

しかし、エゾシカだけの食害としては、いくつかの疑問点が残りました。

- 1 食害を受けた植栽木の割合が高すぎる。
- 2 地表処理した箇所の植栽木だけが被害を受けており地表処理周辺の笹は食害を受けていない。
- 3 自然再生事業地の外側は牛の放牧地で餌が豊富なのになぜか植栽木を食べに来る。
- エゾシカの対策としては平成26年度に防鹿柵を設置しました

疑問点を踏まえエゾシカ以外の食害もあるのではと推測し、注意して防鹿柵内を観察しました。 防鹿柵設置後の植栽木においてエゾシカの食痕に似た被害木を発見したので調査方法を検討のうえ被害 を与えている動物の特定を行いました。

調査方法

食害木の食痕などの特徴についての調査を行いました。

動物を特定するために自動撮影カメラによる写真撮影とピデオ撮影の調査を行いました。 これらの結果、高い頻度で人工植栽地を動き回るノウサギが撮影され、植栽木がノウサギにより食害される様子がピデオ撮影を通じて観測され、ノウサギによる食害と推定されましたので対策を考えました。 対策について

1 食害されにくい植栽木を選ぶ。

食害を免がれた植栽木や天然更新木を樹種別に調べた結果、ケヤマハンノキが食害を受ける割合が低

- く、植栽木として有望と判断されました。
- 2 物理的に排除する
 - ① ツリーシェルターを利用する。
 - ② 防ウサギ柵を利用する。
 - (この方法は発生する実生の稚幼樹の保護にも有効)

今後の展開

広葉樹主体の森林を育成する上で障害となる動物の食害対策を実践し つつ検証を置ね、実効性の高い食害対策施業に結びつけていくことにより

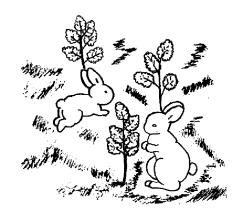


植栽木がノウサギにより被食されている様

広葉樹林育成における「動物の食害対策施業」を確立。

たしエし地 。 たゾた区当 対よ いれ今策るし たシ森国セ `後に食か めカ埜有ン に再林夕 防鹿柵に生を行っ 樹動品発冊 成食 設がい樹標 努対ものた 置多まを茶 め策のでな たにで 数す主町 い取すそ物 ま発が体雷 とり。のに

新たな動物とは?



・・のようです。



林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11

[IP] 050-3160-5787 [TEL] 0154-44-0533 [FAX] 0154-41-7305

[E-mail] h_kusiro_f@maff.go.jp

[URL] http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html



当センターは、国有林をフィールドとして、北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取組むNPO等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。